

お金を通してみる 江戸の人間関係&商人道

江戸に幸福力を学ぶ人情噺の会
(旧久松町倶楽部) 第三回

蒔蓄齋髭丸

人情噺とコミュニケーション

- 第一回 8月30日 『百年目』 ←【終了】
 - 上司部下の人間関係 & 太鼓持ち（帮間）
- 第二回 11月8日 『芝濱』 ←【前回】
 - 夫婦の間柄 & 夫婦の風景
- 第三回 1月24日 『文七元結』 ←【今回】
 - お金を通した人間関係 & 江戸の商人道
- 第四回 3月28日 『子別れ』
 - 親子、家族のきずな

商い（あきない）にまつわる話

- 商いとは飽きないのこと
- 商は笑なり
 - 商は笑にして勝なり（藤本義一著）
- 大阪は町人の町、商人の魂を感じます
- 江戸は職人の町とはいいつつ町衆文化も
 - 江戸しぐさは、繁盛しぐさ（越川礼子氏）
 - 江戸っ子の気っ風（職人系）

江戸時代の金一両は幾ら相当？

- お米では、約4万円
- 賃金では、約30～40万円
- そば代金では、約12～13万円
(江戸中期の各値段をもとに試算すると)

現代のビジネスマン：奉公人

- お店が車体だとすると奉公人はエンジン
 - 一方的なリストラや、突然解雇はなかった
- 小僧 → 丁稚 → 手代 → 番頭
- 番頭になれるのは20分の一程度
 - 40才前でようやく妻帯が許される
 - 前回の夫婦の風景でも、ここふれましたね。
 - 番頭をやり遂げると退職金が50～200両で楽隠居

若旦那も楽じゃない

- 落語やお芝居でお馴染み若旦那
- 実は質実剛健に育てられる
- 遊ぶのは大旦那になった時に接客する技を学ぶため、自分が遊ぶためではなく、
- 大旦那に20両渡されて「遊んで来い」
 - おつりがあっても足りなくなってもだめ
- 「うまい遊び方に生きたお金を使え」

豪商は、有徳の人

- 地域社会に還元して、周囲の支持を得ようとする
- 豪商がいると町が栄えるので、みなから尊敬されて、有徳の人と呼ばれた
- お店は主（あるじ）のものと思うべからず。店を譲り受けて、また譲り渡すまでの30年の間の奉公人と思うべし

豪商の例は？

- 鴻池善右衛門
- 角倉了以
- 紀伊国屋文左衛門
- 河村瑞賢
- 天野屋利兵衛
- 三井高利

- 二代目、十一代西川甚五郎
- 実は、近江商人は、豪商を輩出しています。
 - 豊郷町、近江八幡、五個荘など

三方よし・近江商人の哲学

・ 売り手よし、買い手よし、世間よし

- たとへ他国へ商内に参り候ても、この商内物、この国の人一切の人々、心よく着申され候ようと、自分の事に思わず、皆人よき様にと思い、高利望み申さずと かく天道のめぐみ次第と、ただその行く先の人を大切におもふべく候、それにては心安堵にて、身も息災、仏神の事、常々信心に致され候て、その国々へ入る時に、右の通りに心ざしをおこし申さるべく候事、第一に候
- 宝暦4（1754）年に70歳となった麻布商の中村治兵衛宗岸(そうがん)が15歳の養嗣子に認めた書置(かきおき)のなかの一節

近江商人の流れをくむ企業

- 伊藤忠
- 丸紅
- 西武グループ（堤家）
- 西川産業
- 高島屋（おかげにてやすうり）
- トヨタ、ワコール、日本生命等も

江戸の商人道とは？

- 江戸しぐさを、商売しぐさ、繁盛しぐさとも言った
- 将軍御用達の大手商人を筆頭とする商人が商売をする上で支障をきたさないように工夫して作り上げてきた人間関係を円滑にするためのノウハウや知恵のこと
- 彼らの地位や役目にふさわしい精神やふるまい、分別がなければならぬという矜持があった

相手尊重主義が商人道の神髄

- あい澄みません
 - 目の前の方を仏様のように感じる澄んだ心持ちになれないことをわびる
- 時泥棒を忌む
 - 手紙は「**か**の字をとりなさい」
 - 事前に書き付けを送ってアポ取り：突然は×
- 忙しいを忌む
 - りっしんべん（心）を亡くすと書く
 - 心を失ったものは木偶の坊とし嫌うので、江戸っ子に忙しいは禁句
 - ご多用中のところ（問いかけ）
 - 雑事に追われておりまして（お断り）

そもそも元結って？

ご存知でしたか？

専門の人に聞いてみましょう！

南信州・飯田の地場産業 「水引」の工芸館より

元結 (もとゆい)

昔は髪を結ぶのに麻糸や組紐がつかわれましたが、後に晒紙シヤシヤを捻よった丈夫な「元結」がこれに代わり必需品として愛用されるようになりました。元禄時代の藩主・堀美作守親昌の産業政策で始められた飯田の元結造りは、この地方の良質な水など美しい環境に恵まれ、郷土の主力産業として発展していったのです。

松尾・竜丘・龍江地区で漉すかれた晒紙シヤシヤを町民が「かんばし」で捻り、それを農民が農閑期に元結に仕上げました。

明治四年の断髮令によって元結は衰退を懸念されましたが飯田の業者は水引業に転じ現在も続いています。

手代は住み込みで収入なし？

- 奉公人は現地採用（大店は、上方資本）
- 十歳くらいで見習い（小僧）
- 十三くらいで丁稚（使い走り、雑務）
- 十五で、元服、手代に（蔵の管理）
- やがて番頭さんになって妻帯、暖簾分け、
独立などが許される
- 住み込みの手代には、給料があるというよりは、
仕着せの服と一汁一菜のご飯のみ。
盆暮れに階級に応じてお金をもらえる程度の
収入しかなかった
- 彼にとっての50両は、、、

その他のキーワード

- 細川の下屋敷の中間部屋
 - 中間や小物などの下級侍（奴）が詰める部屋
 - 奴には法被が支給されている
- 法被（はっぴ）と半纏（はんてん）
- 鼈甲問屋 鼈甲（べっこう）って何？

鼈甲



戒指——タイマイ

それは、赤道近海に生息する大型の海ガメ。
タイマイが持つ13枚の甲羅、それが鼈甲。